

平成28年度 第2回 温海地域振興懇談会

次 第

日 時 平成28年10月7日(金)
午後1時30分～3時30分
場 所 温海庁舎 6階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告・質疑

- ・平成27年度に出された意見に対する取り組み等及び
平成28年度温海地域活性化事業について

4. 協 議 (全体会)

- ・平成28年度温海庁舎提案課題について・・・資料No. 2-1

・・・・・・・・・・・・・・・・分 散 会・・・・・・・・・・・・・・・・
(B班は501会議室へ移動)

5. 閉 会

温海地域振興懇談会委員名簿

任期:平成27年6月1日～平成29年3月31日
平成28年7月1日現在

役職名	氏名	出欠	区分	備考
委員	大井喜助	○	公共的団体等の代表	
委員	菅原久継	○	公共的団体等の代表	
委員	佐藤清八郎	○	公共的団体等の代表	
委員	若松邦彦	○	公共的団体等の代表	
委員	小田正宏	○	公共的団体等の代表	
委員	佐々木真人	○	公共的団体等の代表	
委員	遠藤正司	○	公共的団体等の代表	
委員	佐藤美代子	○	公共的団体等の代表	
委員	伊藤貢	欠	公共的団体等の代表	
委員	粕谷明	欠	公共的団体等の代表	
委員	佐藤真紀子	○	有識者	
委員	五十嵐正直	○	有識者	
委員	本間加知子	○	有識者	
会長	奥井厚	○	公共的団体等の代表	
副会長	佐藤満也	○	公共的団体等の代表	

出席者 13 / 15人

【市関係者】

役職名	氏名	出欠	区分	備考
支所長	石塚みさ			
総務企画課長	三浦市樹			
市民福祉課長	五十嵐浩一			
産業課長	百瀬政行			
温海建設事務室長	剣持一善			
総務企画課 総務地域振興主査	庄司益美			
総務企画課 総務地域振興専門員	本間由縁			
地域振興課 地域振興専門員	本間育子		本所	

平成 28 年度 温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

資料No.2-1

1 温海の地域コミュニティと自治会・公民館のあり方について

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
<p>(1) 将来を見据えた単位自治組織等(自治会等)の健全な財政運営と役員の負担軽減</p>	<p>・住民の減少及び高齢化に伴い、役員の担い手確保が難しくなってきたり、また、会費収入等の自主財源が減少し自治会等の財政運営は厳しくなっている。</p> <p>・自治会における事業の見直しや組織体制などを検討している自治会もある。</p>	<p>・各自治会では公民館活動と自治会活動が一緒になって活動しているが、少子化により少年会活動が困難になってきているのではないかと。自治会と公民館活動が一体となって活動したのが温海方式のモデルであったが、公民館活動は近隣集落と一緒に又は学区単位で組織して自治会の軽減が図れないか。</p> <p>・財政運営の厳しい自治会に対する行政からの助成はできないか。</p> <p>・若い人の職場が鶴岡市内となると将来のことを考え鶴岡市内へ移住し集落の人口が減少する。人口減少は自治会運営にも響く。隣接している集落と合併することもありえると思う。集合所が遠くなくても車社会なので特に不便はないと思う。</p> <p>・自治会費が人件費にウェイトがかかり住民に対するサービスが低下しているように感じている。</p> <p>・今後、事業の見直しや組織の見直しも必要になってくるのではないかと。</p> <p>・少子化、高齢者(一人暮らし、夫婦)世帯の増加、(高齢者の死亡、転出など)による空家の増加。会費会員世帯の毎年の減少。自治会に良い状況は見えてこない。今年度、歳出の見直しに取り組んでいるが、削減の妙案は、各委員から出ていない。例で、当自治会の消防費は〇〇万円。市内の町内会の消防予算は〇円。消防手当、分団負担金、幹部会負担金、演習・操法助成金などを廃止・見直しをするためには旧町全体で、市主導で、一自治会ではできない。各種負担金、自治会長会や赤十字、社福会費など18項目あり、負担額は〇〇万円を超える。一自治会で</p>

平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

<p>(2) 単位自治組織と地区自治会との連携や機能・役割分担の検討</p>	<p>・住民自治組織といわれる自治会は、現在 27 組織。世帯数の規模も大小ばらつきがあり、特に小規模の自治会では運営面等において課題を抱えている。</p> <p>・地区自治会は、従来の地区公民館から改称され、生涯学習事業から福祉、防災などの地域課題にも取り組むことも期待されている。</p>	<p>取り組めることは微々たるもので、温海地域全体で、市主導で(市：庁舎が変わる)行うほかないと思う。温海町最後の町長が住民の自治会費削減を公約したが手つかずのまま合併になり誠に残念だった。温海庁舎(自治会長会?)が先頭で行わなければ変わらないと思う。</p> <p>・役員について、公民館時代は中壮年層(働き手)が頑張っており「温海町はすごいな」と感じていた。現在の市部を見ると退職された後、各方面で活躍されている。退職された方を放っておかないでください。</p> <p>・四地区自治会では地区内の民生委員と連携を取り自ら年 1 回地域福祉懇談会を開催、地域の課題にも取り組んでいる。参集範囲：自治会長、公民館主事、夙ヶ関駐在所、民生児童委員、保健推進員)</p> <p>・小規模自治会の統合は「良」としなければならぬ状況と思う。地区自治会の強化で新たな取り組みができたこととは良いのだが、そのために下の組織(各自治会)の負担が増えるは上記(1)と逆行する。屋上に屋上組織を作るとき気を付けることと思う。役員のなり手もなくなる。</p>
<p>(3) 自然災害など有事に備えた自主防災組織の機能の充実</p>	<p>・高齢者や要支援者の増加、若者の減少、平日日中の人口減少、消防団員確保の困難等により、地域の防犯・防災体制の弱体化が懸念されている。</p> <p>・消防団員 OB 等による、有事の際の活動を主とする機能別団員制度が 28 年度からスタートした。</p>	<p>・機能別団員の人数を増やすことが良いかと思う。</p> <p>・高齢者が自分を守る手段を知っておく必要があると思う。</p> <p>・消防団員の年齢が 40 歳までとなっているが年齢の引き上げはできないのか。住所が他地区でも加入できるのか。</p>
<p>(4) ハザードマップ(土砂災害・津波)の作成による避難体制の整備</p>	<p>・温海地域は地形的に集落が点在しており、土砂災害により孤立する恐れがあり、さらには、県の公表により海岸地域では新たな津波浸水域・被害の想定が示されている。</p> <p>・避難場所や避難経路などについて、集落単位で意見交換を行い、津波ハザードマップは、海岸全集落において 28 年度</p>	<p>・「現状及び実態」より進める。</p> <p>・津波ハザードマップについては今後見直しのないものには 100%ではなく 120%の事もありますものではないか。</p> <p>・海岸地域では住民に加えて釣り人・遊客の避難誘導、声掛け等も必要か。</p>

平成28年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

	<p>の完成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業関係者の避難体制もハザードマップに掲載した方が良いか。 ・全戸参加の地震災害非難誘導訓練を年1回行っている。温泉の土砂災害ハザードマップではレッド、イエローゾーンがほとんどで安全箇所がない。それでも、避難誘導訓練を行うことで隣組部の取組み、情報伝達、災害弱者等々、いざの時に役立つ。3種類のハザードマップが配布されているが配布して終わりではいかなのか。機会をとらえて図上訓練も必要と考える。
<p>(5)若者に魅力ある地域づくりやリーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に働く場が少ないことや地場産業の低迷、価値観の多様化等により、若者の転出傾向に歯止めがかからず、少子高齢化の大きな要因になっている。 ・鶴岡まちづくり塾温海グループでは、3つのテーマを設定し、グループワークに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡まちづくり塾温海グループの活動等を市の広報に載せてアピールしてはどうか。リーダー育成にもつながるのではないか。 ・商家で後継ぎが戻ってきているところは頑張っている。各家庭で取組みが第一なのだろうが、地域の魅力づくり、地域の力のアップが土台になると思う。まちづくり塾グループワークの取組みの中でも意見を発信して欲しい。
<p>(6)地域と学校の連携による子どもたちの郷土愛醸成に向けた環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの環境では、小学校の統廃合により、これまで学校と地域が連携してきた各種事業の存続が難しくなってきたおり、子どもたちと地域の関わり方が課題とされている。 ・あつみ小学校では統合の2年前から受け入れ体勢を整えるため、他の3校の地域を探検する行事を計画するなど新たな取り組みを展開した。 ・地区自治会等により地域での学習機会を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで地区運動会を行ってきたが小学校区単位の運動会はできないのか。 ・各地区と良く話し合い、どの様にして関わられるかを見て欲しい。地区は皆それぞれの特徴を持っていて関わり方も違う。 ・鼠ヶ関小学校と地域が連携し、28年5月地域学習協力会が発足。年間7回の行事に参加、協力。 ・あつみ小は集落数が多くなり地域との連携と言葉ではたやすいが大変と思う。小学校に行く機会がほとんどない方々がほとんどです。地区自治会の事業に期待したい。

平成28年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

2 高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる地域づくりの推進

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
<p>(1) 健康づくりの取組みがあること と 介護を必要としない健康づくり（健康寿命の延伸）、介護予防事業等地域活動参加の推進、食生活改善の推進</p>	<p>心身健康づくりを推進する活動を支援しております。 具体的には、研修会や地区会議等の充実を図り、保健推進員の自主的で積極的な活動が出来るように支援しています。 健康づくりに大きな影響を及ぼす食生活改善への取り組みを推進するため、食生活改善推進協議会との連携を強化します。また、温海地域での高齢者の自殺者が多いことから、平成27年度から鶴岡市こころの健康づくり重点地区となっており、こころの健康づくり・自殺予防に向けた啓発事業等に取り組んでおります。</p>	<p>(1)～(4) それぞれ関連性があると思われ、るので一つにまとめて提案課題としてはどうか。 医療の高騰などから市や社福の健康に関わる事業の取組みは以前からは考えられないほど充実していると思う。ただ、はつらつ元気大卒など受講する方は沢山いるようですが受講後はどうか。一過性で終わるのではないか。平均寿命から健康寿命へ、スポーツクラブの参加者は横ばいだ。 ・〈現状及び実態〉をより進める。</p>
<p>(2) 日常生活（食事等）がきちんとできる地域であること 医療（治療、通院等）、通学、買い物等必要な時の交通手段の確保ができる仕組みづくり 冬期間の雪下ろし・除雪、暖房等の確保</p>	<p>食の自立支援やあたたか弁当、また、冬期間の雪下ろしや除雪、暖房費にも助成を行い、地元での生活維持に支援を行っております。 また一部地域においては月2回の診療所開設や買い物ツアーなども行われております。</p>	
<p>(3) 高齢者・一人暮らしの方が孤立しない地域であること、交流があること。 家庭・地域の中で役割があること（知識経験をいかせる場の創出。誰もが役割を持ち地域の一員として活躍する。）</p>	<p>愛の一声運動、あんしん見守りコールなど孤立を防ぐための事業を行っており、また、冬期間など一時的に在宅生活が困難な場合には生活支援ハウスを提供しております。 庁舎でのワンストップサービスも3年経過し、住民にとっても相談しやすく、住民サービスの向上が図られています。今後とも、この利点を生かし、これまでに以上の連携・協力により迅速な対応と共に多様な生活支援と課題解決に向けて取り組まします。 各地域福祉計画や温海福祉センターが策定した「温海地域支え合いプラン」をもとに、三者の窓口の連携協力はもとより、自治会をはじめ地域の関係団体と連携しながら、地域福祉の推進に取り組んでいき</p>	<p>・有事の際、要援護者に対しての避難指示の徹底。 ・一人暮らしの方には隣近所同士声を掛け合うことが一番手っ取り早いし、当たり前のように思う。あまり難しく考えないで、もしも、変だと思っていた時は隣組長さんや自治会に連絡する。 ・特別なことをするのではなく地域内・家庭内の日常のあいさつが大切だと思えます。 ・(3)(4)について</p>

平成 28 年度温泉海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

3 農業、林業、水産業、観光業をどのように振興するか

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
(1)あつまみ温泉の振興	<p>日沿道の開通や山形・新端DCなどを契機としてあつまみ温泉の入客数が増加傾向にあるが、旅館の廃業や空き店舗も散在している。</p> <p>これまでに整備された足湯や川沿いの散策道などのハード整備を商店街の活性化に結びつけられない。当初の目標であった「歩いて楽しい温泉街」づくりに向けて官民一体となつて取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて楽しい温泉街」景観条例の設置で街並みの整備、空き店舗、空き旅館の解決、まち中を花で飾る地域ぐるみの活動が必要ではないか。 ・朝一広場の有効利用することで、空き店舗対策、日中の活性化につながる。 ・関係者だけで話し合うのではなく地域住民も一緒になつて当初の目標を振り回り温泉街を歩いてみてはどうか。 ・温泉温泉を活性化させるには、夏にゆかたを着て踊りのパレードをする。各集落から3人ぐらい参加する。 ・空き店舗、空旅館、空地が目立つ。個々の地力がなく、なかなか商店街の活性化になっていないが着実に屋間人口は増えている。そぞろ歩きの楽しい温泉街が目玉となっている店舗もある。「店舗を増やせ」は難しいが今できることは街の魅力をより磨くこと、あきらめずに取り組んでいくことと思う。
(2)交流を核とした地域振興	<p>旅行二一ズは、団体旅行から個人旅行へ、また、体験型観光の増加が全国的な傾向である。</p> <p>そのため、温泉地域に多くの人を呼び込み、滞在時間を延ばすとともに、いかにリピーターを増やすかが課題である。</p> <p>そのため、ユネスコ認定を受けた食文化や豊富な自然、伝統芸能などを組み合わせた体験型観光の推進が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元にある観光資源の掘り起し、少人数の積み重ね。(例) 温海川のカタクリ園、水芭蕉園、温海嶽、(登山者カード：平成 26 年度 305 名、27 年度 305 名、カード記載者は 10%か 20%とされている。)、摩耶山、天塊山 ・鶴岡の食を温泉旅館で提供する。 ・いかの一夜干しの体験プログラムを増やす。 ・美肌の湯等温泉そのものをPRする。 ・棚田等の景勝地をPRする。 ・最近では三泊～六泊の旅行者が多く目立っている。長期滞在でもフリータイムがほとんどの様だ。旅行者がバスや電車などを利用して好きな所に行くようだ。あつまみ地域

平成28年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

		<p>観光コースを作っても地域のことを知ってもらいたいし、また、来湯して欲しいので旅館と観光協会が協力し合っって観光コースを作る。また、体験コーナーも観光コースに入れて土産にしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年よりNPO法人自然体験温海コーナーネットと共催し、仙台方面より体験旅行の誘致に向け体験活動を実施した。 ・地域に住む人達が観光地であることを自覚し、おもてなしの気持ちで温泉を盛り上げていけたらと思う。 ・福の里、交流員の成果に期待する。
(3)福栄地域の活性化	<p>これまで山間地に点在する5つの集落が独自に地域資源を活用したイベントや体験事業を実施してきた。</p> <p>少子高齢化、人口減少により集落単位での活動が困難な状況にある。恵まれた自然環境や食文化など地域資源を十分活かさされていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)(5)について <ul style="list-style-type: none"> 一 集落一組織(法人化)総合経営が必要だ。機械化の集約・労働配分・市場開拓・情報発信等若い人が経営できる組織化が必要だ。 ・ 国策による森林組合に期待している。 ・ 畑面積の少ないところでは地産地消しかない。温泉や鼠ヶ関など消費する場がある。消費する作物(大葉、大根、ネギなど)安定した量、安定した期間提供できるかと考える。旅館、民宿、食堂が常時必要とする作物と生産者から見える作物(米)は、個々に違う作物。少量の作物では取組みにはならない。以前にあった辨天にじますは目玉商品になる素材と当時思った。現在は同様の商品が見受けられる。
(4)一次産業の振興(森林資源の活用)	<p>木材価格の低迷による森林所有者の施業意欲の低下、高齢化や後継者不足により林業従事者の確保が困難となっている。</p> <p>また、温海カブの伝統農法である焼畑栽培の継承が深刻な問題となっており、中山間集落の維持も危惧される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年からの米政策の見直しやTTPなどにより、農家を取り巻く状況は厳しくなることが予想される。 ・ 温海地域は、平場が少なく米生産の効率が悪い。自由競争になればブランド米の生産が重要になる。米以外の農作物との複合経営を推進し、農家所得を確保する必要がある。
(5)一次産業の振興(温海農業の確立)	<p>関川しな織協同組合が事業主体となり、新たなセンターを建設するが、新センターの利活用も含めた、しな織の生産拡大や後継者の育成及びしな織の活用した新商品の開発など、関川地域の活性化を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関川集落の振興対策 <ul style="list-style-type: none"> 高速道路温海朝日間の建設が進み、鼠ヶ関インターが開設される。国道345号線 平沢関川間道路の早期完成により、関川しな織センター見学してあつみ温泉へと通じる。また、まやの館での昼食も期待される。 東京方面への日帰りあつみ温泉しな織会館見学して
(6)関川しな織センターの改築及び地域活性化		

平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

<p>(7) 焼畑あつまかぶのブランド力向上及び安定生産</p>	<p>近年生産量の減少や品質の低下が懸念されている。栽培基準を満たし認定された「焼畑あつまかぶ」は消費者にまだまだ知られていない。ブランド化について、生産者・加工業者の意識不足が考えられる。</p>	<p>鼠ヶ関インターから新潟・関東方面へ行ける。あつま温泉への入客数は約 18 万人 10% で 18,000 人が見込める。しな織センター入館者は約 5,000 人現在の 3 倍の入館者が見込める。</p> <p>観光産業は総合産業と言われている。</p> <p>戊辰戦争記念館の建設（空き家を利用できないか）、金沢屋のそば・山菜料理の復活、観光わらび園・観光きのこ園（しいたけ・なめこ）、運出し山菜の栽培（山ウド等）、しなの木公園の整備（しなの木は外国では街路樹になっている。樺、フナ、自然雑木を中心にした森林公園、織の里として、若い人が住める里づくり（つれ織の導入、若い人を京都に派遣技術の習得をさせる。）</p> <p>・新センターが早くできること。ただ、しな布の生産量はどう移行しているのか。後継者はどうなのか。</p> <p>・8 月は山焼き時期だが人手が足りないと聞く。山焼きに除草剤、灯油はどうか。スーパーには温海かぶが何社もでていてるので消費需要はある。</p>
----------------------------------	---	--

平成 28 年度温海庁舎提案課題について (H28 地域振興懇談会)

4 交流・連携の推進と基盤の整備

提案課題	現状及び実態	委員の意見等
(1) 鶴岡市橋梁長寿命化修繕計画に基づく計画的な整備	温海地域の橋梁は 152 橋があり、建設後 50 年以上を経過した老朽化橋梁は 20 年後には 73% になります。そのため、今後老朽化する橋梁の増大に伴い、橋梁の維持管理方法を従来型の事後的な修繕及び架替えから、予防的な修繕及び計画的な架替えを行っていく。 今年度は早田橋の架替え、向田橋代換えの道路整備を予定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 152 か所を確認し、整備の必要な場所から修繕して欲しい。 ・ 修繕計画に基づき予防的工事を進める。

5 その他(自由記載)

- 1 ユネスコ食文化創造都市推進と「食と農の景勝地」への申請、インバウンド受け入れ体制づくりと言った鶴岡市の取組みと一体となり温海の観光の振興を指したい。
- 2 地域審議会に参加していたときに申し上げたが、温海地区には若い人が働く大きな企業がないと提案した。丁度、日本海東北道路が開通した時だったのですが温海にはインターもあり、より関東・関西方面への交通網が良くなる。温海に企業誘致をと今でも思っている。若い人が多く地域に止まることにより若い人達同士の交流も深まり結婚にもつながり、子どもも増える。このようなことは誰でも思っているし、願っていることではないか。10年以内に新潟県とつながる。温海地域の過疎化を防ぐためにも多くの若い人達の働く職場の誘致をお願いしたい。
- 3 一人一人が自分の住んでいるところに誇りを持ち、地域と関わっていただけだと良い地域になれると思う。
- 4 「3. 農業、林業、水産業、観光業を・・・」の提案課題の中に水産業の振興が入っていない。
- 5 自治会の委員会で歳出の見直しについて話しがあり、共同浴場のシャワーについて話題に上がった。正面の湯のシャワーをやめると年間120万の経費削減となる。シャワーを止めることは浴場建設の過程や住民の理解を得るなど課題が多くあり簡単にはできない。住民の会費を削減するには自治会で行っている事業を切り捨てれば可能であるが、切り捨ててができないから現状のままである。

